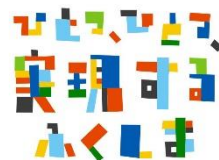


主要な農作物の生育情報

令和7年度 第6号

(令和7年9月11日現在)

福島県農林水産部農業振興課



【作物】

1 水稻（農業総合センターの作柄解析試験における生育概況）

農業総合センターの生育調査におけるコシヒカリの出穂期は、平年並から5日早まっています。出穂後の気温が高く経過したため、成熟期も早まる見込みです。なお、刈取始期の目安となる出穂後の積算気温1,000℃の到達日は平年の成熟期より早まります。

表1 農業総合センターにおける水稻の生育状況

調査場所	品 種	移植期 (月. 日)	出穂期			積算気温 1000℃ 本 年 (月. 日)	成熟期 平 年 (月. 日)
			本 年 (月. 日)	平 年 (月. 日)	平年差 (日)		
本 部	ひとめぼれ	5. 15	7. 29	8. 2	-4	9. 6	9. 10
	天のつぶ	5. 15	8. 2	8. 4	-2	9. 10	9. 12
	コシヒカリ	5. 15	8. 7	8. 9	-2	9. 16	9. 19
会津地域 研 究 所	ひとめぼれ	5. 20	7. 27	7. 30	-3	9. 1	9. 11
	天のつぶ	5. 20	8. 2	8. 1	1	9. 8	9. 13
	コシヒカリ	5. 20	8. 4	8. 4	0	9. 10	9. 15
浜 地 域 研 究 所	ひとめぼれ	5. 9	7. 26	7. 30	-4	9. 2	9. 10
	天のつぶ	5. 9	7. 28	8. 1	-4	9. 4	9. 18
	コシヒカリ	5. 9	8. 3	8. 8	-5	9. 11	9. 21

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) 平年は前5カ年（2020～2024年）の平均値

注3) 積算気温1,000℃の欄は、本部がアメダス郡山、会津地域研究所がアメダス若松、浜地域研究所がアメダス相馬における出穂後の日平均気温積算値1,000℃到達日を示す。
9月9日まで本年値、9月10日以降は平年値を用いた。

2 大豆（農業総合センターの作柄解析試験における生育概況）

農業総合センターの生育調査における大豆の開花期は、播種期が遅くなった本部（郡山市）の標播を除き、平年より早まっています。

表2 農業総合センターにおける大豆の生育状況

調査場所	播種 時期	品 種	播種期 (月. 日)	出芽期 (月. 日)	5葉期 (月. 日)	開花期 (月. 日)	成熟期 (月. 日)
本 部	標播	タチナガハ	5. 29 (-4)	6. 8 (-6)	6. 28 (-9)	7. 19 (-8)	[10. 26]
		里のほほえみ	5. 29 (-4)	6. 8 (-5)	6. 29 (-7)	7. 20 (-6)	[10. 26]
	晩播	タチナガハ	6. 20 (±0)	6. 28 (±0)	7. 20 (+1)	8. 2 (-2)	[10. 30]
		里のほほえみ	6. 20 (±0)	6. 28 (+1)	7. 20 (+1)	8. 3 (±0)	[10. 30]
会津地域 研 究 所	標播	あやこがね	5. 29 (-3)	6. 6 (-4)	6. 27 (-9)	7. 15 (-9)	[10. 21]
		里のほほえみ	5. 29 (-3)	6. 7 (-3)	6. 29 (-7)	7. 16 (-9)	[10. 28]
浜 地 域 研 究 所	標播	タチナガハ	5. 29 (-11)	6. 3 (-12)	7. 4 (-7)	7. 19 (-12)	[10. 28]
		里のほほえみ	5. 29 (-11)	6. 3 (-12)	7. 4 (-6)	7. 19 (-11)	[10. 25]

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) ()内の数字は、前5年平均（2020～2024年）との比較。[]内の数値は、平年値。

【野 菜】

1 夏秋きゅうり

雨よけ栽培は、高温・乾燥の影響により、曲がり果や尻太果等が増加しています。

露地栽培においても、高温・乾燥により、成長点が弱く、草勢も低下傾向にあり、曲がり果や尻太果が増加しています。かん水設備等がないほ場では、草勢が弱く、例年より早く収穫終了を迎える見込です。7月下旬定植の抑制栽培は、親づるの収穫が終わり、子づるが収穫中です。

病害は、8月中旬に降雨により、露地栽培を中心に、炭そ病や褐斑病が発生しています。

害虫は、アザミウマ類、ハダニ類やアブラムシ類、一部ほ場では、カメムシ類やウリハムシが発生しています。

2 夏秋トマト

県南地方の4月定植の作型では、11～13段花房が開花、南会津地方の5月下旬定植の作型では、10～11段花房が開花し、生育は平年並ですが、高温・乾燥による花落ち、着色異常や裂果が発生しています。

病害は、すすかび病や灰色かび病、一部で青枯病等が見られます。また、中通りでは、黄化葉巻病や黄化病が発生しています。害虫は、コナジラミ類やオオタバコガ、トマトキバガ等が増加しています。

3 さやいんげん

4～5月播種の作型は概ね収穫が終了し、6～7月播種の作型が収穫期となっていますが、高温による落花が多く発生しています。また、収穫中期以降の草勢低下により奇形莢が多く発生しています。

病害虫は、角斑病、立枯病、菌核病やアザミウマ類、ハダニ類が発生しています。

4 夏秋ピーマン

県中地方のトンネル栽培では平年並の11～15番果、露地栽培では平年並の9～10番果が収穫されています。7月までの高温・乾燥により草勢低下、尻腐れ果が散見されていたが、8月中旬の降雨により、草勢は回復、尻腐れ果は減少傾向にあります。

病害虫は一部ほ場で斑点病が見られ、アブラムシ類、アザミウマ類、オオタバコガが発生しています。

【果 樹】（福島県農業総合センター果樹研究所における9月1日現在の生育概況）

1 もも

「川中島白桃」の収穫盛期は8月27日で平年より2日遅く、昨年より14日遅くなりました。

果実の大きさは364gで平年並、糖度は16.5° Brixで平年よりかなり高くなりました。

「ゆうぞら」の収穫盛期は8月22日で平年より11日早く、昨年より5日遅くなりました。

果実の大きさは377gで平年よりやや大きく、糖度は14.4° Brixで平年より高くなりました。

2 なし

「幸水」の収穫開始は8月18日で平年より6日早く、収穫盛期は8月23日で平年より6日早くなりました。果実の大きさは353gで平年よりやや小さく、糖度は13.1° Brixで平年並でした。

「豊水」の収穫開始日は9月4日で平年より8日早くなりました。

3 りんご

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が68.4mm（平年比95%）、横径が75.2mm（平年比95%）と平年並の状況です。満開後日数で比較すると、平年並より小さい状況です。

「つがる」の収穫開始日は8月22日で平年より5日早く、収穫盛期は8月25日で平年より6日早くなりました。満開日からの成熟日数は122日で平年より3日短くなりました。

果実の大きさは265gと平年よりやや小さく、糖度は13.6° Brixと平年より高く、硬度は13.8ポンドと平年より高くなりました。

4 病害虫の発生

病害の発生は少ないですが、果樹カメムシ類やナシヒメシクイの発生が平年に比べて多い地域があり、ハダニ類は各樹種で発生ほ場割合が高くなっています。8月29日付けで病害虫発

生予察情報・発生予報が発表されており、果樹情報等においても注意を喚起し、現地における防除対策の徹底を図っています。

【花 き】

1 コギク

8月咲きは、高温少雨の影響により開花が平年より遅れました。

9月咲きは、草丈、葉数とも概ね平年並から低い状態です。開花時期はやや早いから平年並となっています。開花時期が早い地域や品種では、出荷が8月6半旬頃から開始されています。開花時期が平年並の地域では、出荷が9月2～3半旬頃から本格的に始められる見込みです。

病害虫では、ヨトウムシ類、オオタバコガ、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の発生が見られています。

2 リンドウ

8月咲きは積雪の多かった地域で春の融雪の遅れ等の影響から開花が遅れました。

9月彼岸向けの品種は、草丈、葉数とも概ね平年並から低い状態です。開花時期は、平年並からやや遅れとなっています。9月2～3半旬に向けて出荷が本格化する見込みです。一部の品種では高温に花卉の着色不良が見られます。

病害は、葉枯病、黒斑病、褐斑病の発生が続いており、特に葉枯病と褐斑病は、多数の地域で被害が進展しています。また、害虫は、ハダニ類、アザミウマ類、タバコガ類の発生が続いています。

【飼料作物】

1 牧草

2番草は収穫が終わり、3番草の生育期となっています。7月までの高温少雨の影響で2番草では、品質の低下が見られます。3番草の生育はほぼ平年並です。

2 飼料用トウモロコシ

雨不足の影響により茎が細く、葉の枯死が一部みられたため、収量は平年並み～平年よりやや少ない状況です。8月下旬から収穫・調製が行われています。

3 W C S用稲

8月中旬から収穫・調製が行われています。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ）
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> 等を活用し、適切に対応しましょう。

☆ 農作業事故を防止しましょう！

暑い日が続きますので、体調管理に十分留意し熱中症対策をしっかり行い、農業機械の操作にも注意しましょう。

降雨が多くなっている地域では、地盤が緩み、崩れやすくなっているところがありますので、ほ場点検を行ってから作業を開始しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7344

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#seiiku>